

## SY-4) 日本人における HRT の実態 (JNHS)

群馬大学医学部保健学科医療基礎学

林 邦彦

### 【略歴】

1980年	東京大学医学部保健学科卒業	1996年	群馬大学医学部保健学科医療基礎学助教授
1980年	山之内製薬株式会社臨床統計部	1999年	日本ナースヘルス群馬パイロット研究開始
1990年	保健学博士(東京大学, 疫学)	2001年	群馬大学医学部保健学科医療基礎学教授
1990年	ハーバード大学公衆衛生学客員研究員	2001年	日本ナースヘルス研究(JNHS)開始

【目的】 Women's Health Initiative (WHI) Study のホルモン補充療法 (HRT) 臨床試験での早期中止を報告した論文は, 世界で大きな注目をあび, 欧州や北米での閉経後 HRT 使用に影響を与えた. 一方, わが国の大規模疫学研究では HRT 使用を正確に調査したものが少なく, 近年のわが国における HRT 使用実態は詳かではない. そこで, 本研究は, わが国での近年の閉経後 HRT の使用実態を明らかにし, WHI 報告前と後での変化をみることを目的とした.

【方法】 本研究は, 2001年から2007年に実施した断面的調査である Japan Nurses' Health Study ベースライン調査において, 調査時年齢が45~64歳の閉経前後の女性16,669人を対象に HRT 使用歴の分析を行った. 対象者における HRT 使用は, 写真付き女性ホルモン剤リストで使用薬剤を特定するとともに, 自記式調査票によって調査した.

【結果】45~64歳の全女性 HRT 現使用者割合は3.1%, 過去使用者を含めた使用経験者割合は7.2%であった. 閉経後女性のみを対象とした場合では, 現使用者割合5.8%, 使用経験者割合12.9%であった. また, 手術既往のない自然閉経後女性での現使用者割合4.8%, 使用経験者割合11.3%に比べて, 両側卵巣摘出術や薬物治療による人工的な閉経の女性では, 現使用者割合15.5%, 使用経験者割合35.1%と高いものであった.

閉経後女性における HRT 現使用者割合は, WHI 報告前で5.8%, WHI 報告後で5.7%と変化はなかったが, 開始後1年未満の新規使用者の割合は減少していた. また, 過去使用者割合は WHI 報告前には6.5%であったが, WHI 報告後には9.2%と統計学的に有意な増加が観察された. 使用されたエストロゲンの剤形では, 結合型経口剤の割合が減り, 貼付型など経皮吸収剤の割合が WHI 報告後に有意に高くなっていた.

【結論】 諸外国で報告された WHI 報告後における HRT 現使用の急激な減少は, わが国ではみられなかったが, 過去使用者の増加, 新規使用者の減少など少なからず影響があったといえる.